



上越の暮らしかた
旧市街・高田篇

移住促進へ上越の魅力発信

上越市は7月11日、今年度からスタートさせる移住インフルエンサーの委嘱状を5人に渡しました。移住インフルエンサーは、上越市の魅力を全国に発信していく任務を担います。上越市への移住を促進させることがねらいです。（上の写真はいずれもフェイスブックから）

15日現在、市長からの委嘱状を授けられた人は公開されていませんが、会員登録サイト、フェイスブックで移住インフルエンサーになったことを明らかにしたのは上野迪音さん、赤木美名子さん、五十嵐めぐみさんの3人。

このうち上野迪音さんは高田世界館を動かしている人の一人。上野さんは、高田について、「歴史あり！人情味あり！飲み屋多し！、素晴ら

しい三拍子揃った街だ」とのべ、「特色ある街の良さをお伝えすることで、上越および高田のファンを増やしていければ」と語っています。

吉川区在住で、このところ、もんぺ製作所などで話題となっている赤木美名子さんは、「移住して6年が経ち、地域のみなさんからも特別な存在でなく住民として接していただき、わたし自身も移住者を迎える側

としての視点に変わってきた。移住して上越でたくましく生きる仲間と一緒に」がんばると決意をのべています。

五十嵐めぐみさんも、「上越市への移住を考えている人に、わたしの暮らしがへえーとか思ってもらえたらいいな」と書いています。

3人からは上越の魅力などを大いに発信してもらいたいですね。

今年の平和展、テーマは「子どもと戦争」



上越市の平和展が7月11日から高田図書館内の小川未明文学館で始まり、来月18日まで。

今年の平和展は、「子どもと戦争」のかかりを伝えることを中心に企画されています。子どものおもちゃ、カルタ、学校教科書など子どもの暮らしのあらゆる分野まで戦争とからめられていたことを知り、改めて恐ろしくなりました。

今回はまた、長岡戦災資料館の資料がいくつも展示されていました。長

岡空襲での悲惨な体験が絵などで残されていて、それらに引きつけられました。

その中でも、「平潟神社の忠魂碑下の合同火葬」の絵に添えられた文章は切ないものでした。

年老いた母親が大勢の死体と一緒に焼かれる娘を思い、「こんげんのこんなら、腕一本でも取っておくがらった」と叫んで泣いていたと書かれていたのです。

泣き叫ぶ母親の絵が左下写真です。



【タイサンボク】モクレン科の常緑高木。漢字で、「泰山木」と書きます。7月15日、吉川区戦没者慰霊祭の会場となった原之町の福正寺の境内で白い花をひとつだけ咲かせていました。花の位置は地上1m80cmくらいと高く、背の高い人から教えてもらうまで気づきませんでした。花言葉は「威厳」。

はしづめ法一の活動レポート

No.1918 2019.7.21

発行・編集 日本共産党上越市議 橋爪のりかず
Tel 025-548-3628
通じないときは 090-5392-1961
E-mail hasiznyg@ruby.ocn.ne.jp
URL <http://www.hose1.jp/>



ブログ「ホーセの見
てある記」は
← こちら

橋爪法一

検索

春よ来い

第五六六回

有線放送(2)

まさか、まさか、いまから八〇年ほど前に使われていた有線放送施設が残っているとは。

先日、牧区高尾で「お茶飲み散歩」に顔を出し、「向」という屋号の太田さん宅でお茶を飲んでいたときでした。突然、壁際の高いところから、「午後三時からナナツキさんの演奏会を始めます。お出かけください」という町内会のお知らせが流れてきました。

このお知らせがアナウンスされた瞬間、私は壁際の一角にある茶色っぽいものを見て、驚きました。明らかに、数十年前の「ラジオ」と思われる木製の箱から音声が流れていました。しかも、お茶飲み場では、太田さんだと思うのですが、「有線」という言葉が使われたのです。

私は持参していたデジタルカメラを取り出し、この「ラジオ」にカメラを向けました。「ラジオ」までは数メートルの距離があったのですが、鮮明な写真を何枚か撮ることができました。

太田さんのところでのお茶飲み会では、その後、出していただいたキュウリとカブの漬物のことやコリコリ感満点のタクワンのことなどで楽しい交流ができました。でも、「ラジオ」については深い質問もせず、そのまま終わってしまいました。

私の頭の中で再びこの「ラジオ」への関心が高まってきたのは、わが家に着いてからです。私が撮った写真を見て、「このラジオは原の有線放送と同じ時期のものだったのではないだろうか」という疑問がわいてきたのです。

私が牧区の有線放送について初めて知ったのは、八年前の九月のことでした。高田の柳川月さんなど全国各地で家族新聞を発行している人たちとともに原の明願寺を訪

問したときです。

明願寺では、当時のご住職の池永文雄さん(故人)から法話をお聴きし、その後、このお寺から全国最初の有線放送を行った当時の思い出などを語っていただきました。それだけではありません。自宅の二階期にある当時の有線放送設備や昭和初期の蓄音機、フィルムモンなども公開してくださったのです。

その時のお話では、明願寺から近くの家に放送をしたのが、一九三六年(昭和一年)、ラジオ共同聴取の会をつくったのが一九三九年(昭和十四年)であり、この共同聴取は一九四五年(昭和二十年)には五六〇戸に広がったということでした。となると、高尾にも有線放送が広がっていた可能性があると思います。

私は高尾の「お茶飲み散歩」の夜から数人の協力を得て情報集めをさせてもらいました。

そして、お茶飲み散歩の翌々日の朝でした。「向」の太田さんへ直接電話をかけて、お聞きしたところ、「高尾でも終戦前から有線放送が行われていた」ことがわかったのです。やはり、高尾にも有線放送に強い関心を持っておられた人がいたんですね。しかも、太田さんの家にある「ラジオ」は当時からのものであり、真空管を外して、スピーカーに転用しているというのです。

私は、牧区での戦前の有線放送設備が残っているのは原の明願寺だけと勝手に思い込んでいました。それだけに、「ラジオ」だけとはいえず、当時の有線放送関連施設の一部が残っていて、しかもまだ使われている、そのことを知って、胸がいつぱいになりました。

まさか、まさかの再発見でした。

市内各地で戦没者追悼法要

市内各地で戦没者追悼法要が行われています。

15日は吉川区戦没者合同追悼法要が原え町の福正寺で行われました。

追悼の言葉をのべたのは、吉川区遺族会会長の山本浩さん、上越市副市長の土橋均さんなど3人、それぞれ表現は違いましたが、平和の尊さについて言及し、次の世代に引き継いでいくことの大切さを強調されました。

土橋副市長はこの11日から始まっている上越市の平和展についてふれ、「子どもと戦争のかかわりを伝える」という今回の企画の出発となったのは、ある人が「これ見てくんない」と土橋副市長に見せた写真だったことを明らかにしました。平和展で、この写真、いま一度見てみたいです。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 7月10日(水) | 7月17日(水) |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.047 | 0.040 |
| 上越北消防署 | 0.053 | 0.047 |
| 新井消防署 | 0.050 | 0.047 |
| 頸北消防署 | 0.050 | 0.043 |
| 頸南消防署 | 0.070 | 0.060 |
| 東頸消防署 | 0.057 | 0.050 |
| 高士分遣所 | 0.043 | 0.050 |
| 名立分遣所 | 0.053 | 0.043 |



老人会で花壇管理

大島区大平のT字路付近にある花壇のサルビア、マリーゴールドがいま、きれいに咲いています。

どなたが管理されているのかと思ったら、老人会のみなさんでした。目立つ花壇ですね。

春よ来い

第五六六回

有線放送(2)

まさか、まさか、いまから八〇年ほど前に使われていた有線放送施設が残っているとは。

先日、牧区高尾で「お茶飲み散歩」に顔を出し、「向」という屋号の太田さん宅でお茶を飲んでいたときでした。突然、壁際の高いところから、「午後三時からナナツキさんの演奏会を始めます。お出かけください」という町内会のお知らせが流れてきました。

このお知らせがアナウンスされた瞬間、私は壁際の一角にある茶色っぽいものを見て、驚きました。明らかに、数十年前の「ラジオ」と思われる木製の箱から音声が流されていました。しかも、お茶飲み場では、太田さんだと思うのですが、「有線」という言葉が使われたのです。

私は持参していたデジタルカメラを取り出し、この「ラジオ」にカメラを向けました。「ラジオ」までは数メートルの距離があったのですが、鮮明な写真を何枚か撮ることができました。

太田さんのところまでのお茶飲み会では、その後、出していただいたキュウリとカブの漬物のことやコリコリ感満点のタクワンのことなどで楽しい交流ができました。でも、「ラジオ」については深い質問もせず、そのまま終わってしまいました。

私の頭の中で再びこの「ラジオ」への関心が高まってきたのは、わが家に着いてからです。私が撮った写真を見て、「このラジオは原の有線放送と同じ時期のものだったのではないだろうか」という疑問がわいてきたのです。

私が牧区の有線放送について初めて知ったのは、八年前の九月のことでした。高田の柳川月さんなど全国各地で家族新聞を発行している人たちとともに原の明願寺を訪

問したときです。

明願寺では、当時のご住職の池永文雄さん(故人)から法話をお聴きし、その後、このお寺から全国最初の有線放送を行った当時の思い出などを語っていただきました。それだけではありません。自宅の二階期にある当時の有線放送設備や昭和初期の蓄音機、フィルムモンなども公開してくださったのです。

その時のお話では、明願寺から近くの家へ放送をしたのが、一九三六年(昭和一年)、ラジオ共同聴取の会をつくったのが一九三九年(昭和十四年)であり、この共同聴取は一九四五年(昭和二十年)には五六〇戸に広がったということでした。となると、高尾にも有線放送が広がっていた可能性があると思いました。

私は高尾の「お茶飲み散歩」の夜から数人の協力を得て情報集めをさせてもらいました。

そして、お茶飲み散歩の翌々日の朝でした。「向」の太田さんへ直接電話をかけて、お聞きしたところ、「高尾でも終戦前から有線放送が行われていた」ことがわかったのです。やはり、高尾にも有線放送に強い関心を持っておられた人がいたんですね。しかも、太田さんの家にある「ラジオ」は当時からのものであり、真空管を外して、スピーカーに転用しているというのです。

私は、牧区での戦前の有線放送設備が残っているのは原の明願寺だけと勝手に思い込んでいました。それだけに、「ラジオ」だけとはいえず、当時の有線放送関連施設の一部が残っていて、しかもまだ使われている、そのことを知って、胸がいつぱいになりました。

まさか、まさかの再発見でした。

市内各地で戦没者追悼法要

市内各地で戦没者追悼法要が行われています。

15日は吉川区戦没者合同追悼法要が原え町の福正寺で行われました。

追悼の言葉をのべたのは、吉川区遺族会会長の山本浩さん、上越市副市長の土橋均さんなど3人、それぞれ表現は違いましたが、平和の尊さについて言及し、次の世代に引き継いでいくことの大切さを強調されました。

土橋副市長はこの11日から始まっている上越市の平和展についてふれ、「子どもと戦争のかかわりを伝える」という今回の企画の出発となったのは、ある人が「これ見てくんない」と土橋副市長に見せた写真だったことを明らかにしました。平和展で、この写真、いま一度見てみたいですね。



ニュースフラッシュ

上越地域各消防署における空間放射線量測定結果

測定は毎日午前9時。数値はマイクロシーベルト。1時間当たりの測定量です。

消防署によると、通常は1時間当たり0.016~0.16μSv(マイクロシーベルト)だとのこと。

| | 7月10日(水) | 7月17日(水) |
|--------|----------|----------|
| 上越南消防署 | 0.047 | 0.040 |
| 上越北消防署 | 0.053 | 0.047 |
| 新井消防署 | 0.050 | 0.047 |
| 頸北消防署 | 0.050 | 0.043 |
| 頸南消防署 | 0.070 | 0.060 |
| 東頸消防署 | 0.057 | 0.050 |
| 高士分遣所 | 0.043 | 0.050 |
| 名立分遣所 | 0.053 | 0.043 |

ナナツキのコンサート

牧区の高尾活性化センターでこのほど開催されたナナツキコンサート、「五木の子守唄」「精霊流し」など懐かしい曲の演奏を聴き、リラックスできました。

ナナツキは、池田なつきさんのチェロと小川菜々さんの二胡の演奏を行う時のグループ名。「菊次郎の



夏summer」を聴いて、一発でこの曲が好きになりました。演奏の合間に二人が語るエピソードもまた楽しいものでした。